



政府訓練の翌日に関東地方を台風 15 号が直撃。広範囲な停電により甚大な被害が出ています。EMIS をみると要支援の病院が赤く表示されています。みなさんの無事を祈るとともに、訓練が生かされていることを願います。

大規模地震時医療活動訓練

毎年 9 月 1 日(防災の日)近くに開催されている政府訓練に参加してきました。今年の想定は「首都直下地震」。オリンピックを控え是非ともこのタイミングで訓練をしておく必要があったようです。

日時:令和元年 9 月 7 日(土)

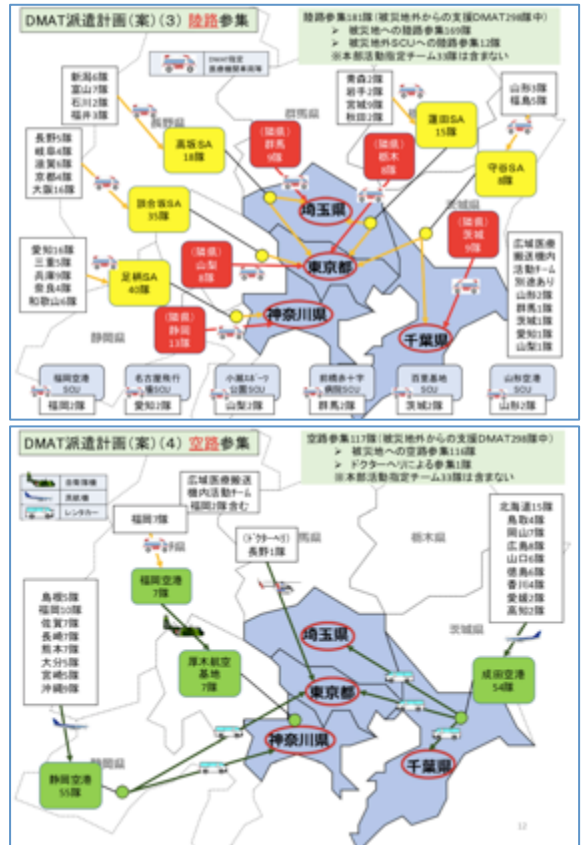
参加機関:内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省、国土交通省、海上保安庁、防衛省、JAXA、日本赤十字社、NEXCO 東日本、NEXCO 中日本、全日本トラック協会、1 都 10 県、等
参加病院:1 都 3 県 199 病院(埼玉県 31、千葉県 40、東京都 83、神奈川県 45)

訓練プレイヤー(DMAT/チーム参加):319 病院、331 チーム、約 1,600 名

訓練コントローラー/指定プレイヤー:約 440 名(DMATインストラクター/タスク等)

ヘリ(実機):ドクヘリ 4、民間ヘリ 3

当院からの参加者:3 名(医師 1、ロジ 2)



首都直下地震発生時には都内に桁外れの重症患者が発生しますが、地域の 2 次病院や災害拠点病院でキャパオーバーとなった赤患者は、立川や埼玉、千葉、神奈川といった被災地外に搬送しなければなりません。その作業がボトルネックになるのがわかっていますが、搬送は DMAT 以外には頼りません。今回も DMAT によるレンタカーでの実搬送が行われました。

私たちは金曜夕に羽田からレンタカーを借りて成田に前泊。土曜朝 8 時半に空港に参集、受付を済ませ 20 分ほど待機していると、東京都区東北保険医療圏(足立・荒川・葛飾区)の活動拠点本部(東京女子医大東医療センター)への移動を指示されました。EMIS で道路状況を確認(首都高は通行可能)、11 時すぎに女子医大東医療センターに到着。周辺 2 次病院からの転送依頼に応じる形で片道 1 時間を往復して赤患者 1 名(の医療搬送カルテ)の搬送を行いました。次に女子医大でも手に負えない赤 3 名(の医療搬送カルテ)をさらに高次である日本医大病院

(千駄木)に搬送。片道 20 分の道のりを 2 往復行い、戻ったところで 16 時半となり訓練終了となりました。振り返りのあと、千葉市のホテルに移動し千葉県主催の懇親会に参加、災害医療のベテランのみなさんから貴重なお話をたくさん伺いました。翌日、台風が近づく前に徳島に戻りました(そのあと千葉県が大変なことになるとは、思いもよませんでした)。

反省点、気づいた点、重要な点など(参加者からの声です)

C(Command and Control)

- ・ EMIS は常時チェックすべし。活拠からの新しい指示/情報は EMIS にある。常にチェックしている要員がいてもいい。
- ・ 道路状況が EMIS のどこに UP されているのかなかなか探せなかった。掲示板の下の項目に「被害想定」として載せられていたが、多くの情報の中に埋もれていた。
- ・ 土地勘がない場所は地図がないと不便。地名の読み方、

おおまかな距離、道の太さ(車線数)、迂回路など。

- ・ 指示通り患者を搬送したのに、病院から「受入不可といったはずだ」といわれた。上位本部同士の情報共有が上手くできていなかったのだろう。田岡病院が被災した場合も、いくら「籠城」や「受入ストップ」と宣言しても患者は搬送されてくるかもしれない。

S(Safety)

- ・ 余震(の想定)があり、すぐ EMIS 更新をしたが安否確認の連絡をするようにと活拠からメールあり。本部は EMIS を見てくれてなかったのか? 安否確認や状況報告の連絡手段をあらかじめ確認できていなかったと反省。

C(Communication)

- ・ 連絡はこまめにすべし。こちらはあと 10 分で到着するとわかっている側はいつになるのか、と心配している。
- ・ 衛星携帯電話による EMIS 接続がなかなかできなかった。歩道にアンテナを設置したため歩行者が横切るたびに電波が遮断されたのが原因。
- ・ Wi-Fi 連続使用により充電不足となった。車載充電器があればよかったと準備不足を悔やんだ。
- ・ そもそもランシーバーを持っていくのを忘れた、あれだけ準備しておいたのに。チェックシートも病院出発前にチェックすべきだった。

A(Assessment)

- ・ とにかく患者搬送はできるだけしなくてすむよう、病院に物資を集めて「籠城」した方がよい。

他にも大小さまざまな反省がありました。

- ・ 訓練参加に向けて事前に準備してくださり、また訓練中の勤務調整など配慮していただき感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 情報ツールの枯渇や、情報の錯乱が発生しやすい災害時こそ、平時の業務から注意し確認を徹底するよう努めていくことが重要だと実感しました。参加させていただきありがとうございました。

